

かながわあんしん生活支援フォーラム in 相模原

～ 人生100年・いきいきと安心の両立社会 ～

日時: **3月6日(火)** 14:00～16:40
(開場 13:30)

会場: **相模原けやき会館 大樹の間**
(相模原市中央区 富士見 6-6-23)

定員: **先着 400名(当日受付)**

※定員に達した場合、ご入場いただけません
ので、予めご了承ください。

評論家
高齢社会をよくする女性の会 理事長

樋口 恵子 氏



入場無料

手話通訳・要約筆記あり

○ プログラム ○

— 14時 開演 —

第1部【認知症について】 **認知症サポーター養成講座**
講師

清水 美喜代 氏 (認知症の人と家族の会 神奈川県支部)

— 休憩 —

第2部【基調講演】

“人生100年・いきいきと安心の両立社会”

樋口 恵子 氏 (評論家・高齢社会をよくする女性の会 理事長)

第3部【座談会】

コーディネーター

桑原 寛 氏 (神奈川県精神保健福祉センター 所長)

対談者

樋口 恵子 氏 (評論家・高齢社会をよくする女性の会 理事長)

対談者

清水 美喜代 氏・堀越 ひろみ 氏

(認知症の人と家族の会 神奈川県支部)



①JR 横浜線「相模原」駅 南口より

交通アクセス

徒歩約20分 または 神奈川中央交通バス乗車5分

「北里大学経由相模大野駅」行き、「小田急相模原駅」行き または
「相武台前駅」行き「ウェルネスさがみはら前」下車徒歩1分 ほか

②小田急線「相模大野」駅 北口より

神奈川中央交通バス乗車約30分 「北里大学経由 JR相模原駅南口」
行き「ウェルネスさがみはら前」下車徒歩1分 ほか

③JR 相模線「上溝」駅 より

徒歩約25分 または 神奈川中央交通バス乗車約5分 「市役所経由
JR相模原駅南口」行き「市民会館前」下車徒歩2分 ほか

主催: 神奈川県 (平成23年度 神奈川県 認知症サポーター養成促進事業)

※公共交通機関でお越しください

(平成23年度 神奈川県立 平塚ろう学校 地域活性化コミュニケーション推進事業)

共催: 相模原市

後援: 公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部
特定非営利活動法人 神奈川県介護支援専門員協会
ライオンズクラブ国際協会 330-B 地区
毎日新聞社横浜支局

協賛: エーザイ株式会社 / ファイザー株式会社



お問い合わせ:

平成23年度 神奈川県 認知症サポーター養成促進事業 運営事務局
(株)コモンズ 21 研究所 TEL 045(752)0211 FAX 045(752)0242

かながわあんしん生活支援フォーラム in 相模原 出演者プロフィール

●基調講演者：樋口 恵子 氏（評論家・特定非営利活動法人 高齢社会をよくする女性の会 理事長）

東京大学文学部美学美術史学科卒業。東京大学新聞研究所本科修了、時事通信社・学習研究社、キャノン株式会社を経て、評論活動に入る。NPO 法人 高齢社会をよくする女性の会 理事長。東京家政大学名誉教授。高齢社会 NGO 連携協議会 代表（複数代表制）。

著書に、『女、一生の働き方 BB から HB へ』（海竜社）、『祖母力』（新水社）ほか多数。厚生労働省社会保障審議会委員などを歴任。

●コーディネーター：桑原 寛 氏（神奈川県精神保健福祉センター 所長）

昭和51年横浜市大卒。大学病院精神科、県立精神病院、地域公立総合病院の無床精神科外来などで精神科医療に携わった後、平成3年より、神奈川県精神保健センターで地域精神保健にかかる取り組みを開始。神奈川県衛生部保健予防課課長、神奈川県鎌倉保健福祉事務所所長を経て、平成14年4月から神奈川県精神保健福祉センター所長。

同センターでは、今日、病者も障害者をも含む全ての地域住民の心の健康づくりと地域のトータルケア体制の整備に向け、「人をつなぎ、地域をつなぎ、明日への一歩をつなごう」を合言葉に、心の世紀にふさわしい「孤立させない地域づくり」に取り組んでいる。

●対談者：堀越 ひろみ氏（公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部）

平成4年ころより、同居していた義母の介護が始まる。平成9年認知症の人と家族の会 神奈川県支部入会。子育てと介護が同時進行し、忙しい日々を過ごしてきた。

平成12年、義母が特別養護老人ホームに入所。同年度より現在に至るまで家族の会の世話人等の役員職を歴任。現在は、家族の会として、介護家族への相談支援や認知症啓発のための講演活動、未来の高齢者介護を担うホームヘルパー2級講座の講師、行政委員会の委員等々、認知症への理解を深めるべく活動を続けている。また、平成17年からは、認知症高齢者グループホーム、デイサービス、ホームヘルプ、居宅介護支援事業所の入った複合施設の運営に携わった。介護サービス事業者として、利用者と介護保険の板挟みとなり、思うようなサービス提供ができないもどかしさから、第三者評価にも携わっている。

●対談者：清水 美喜代 氏（公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部）

平成10年頃、養母が癌を発病、ターミナルケアの末に看取る。平成12年、養父が認知症と診断され、介護保険スタートに合わせてサービスを利用しながら在宅で介護。同時に訪問介護員として活動を始める。平成16年、「家族の会」に入会。平成17年に養父が有料施設に入所。平成18年に家族の会世話人となる。平成22年に養父を看取り、10年間の介護生活を終える。この間に取得した資格は、訪問介護員1級・2級、介護福祉士、介護支援専門員。

現在は介護職員としての仕事はせずに、同会にて、家族懇談会、地域のつどい、若年期のつどい、木曜会・本人家族交流会、会報作りや電話相談員等の活動に携わる。その他、個人としてできる身近なこととして、近所のボランティア活動（独居老人宅への訪問や病院音楽療法）にも取り組んでいる。

